

# 男鹿市立小・中学校再編整備計画

男鹿市教育委員会

令和 2 年 1 2 月

# 目 次

## I はじめに

## II 学校再編に向けての基本方針

- (1) 望ましい教育環境について
- (2) 適正規模について
- (3) 計画期間
- (4) 配慮する事項

## III 学校（学区）再編の必要性

- (1) 現状と課題
  - ①小学校
  - ②中学校
- (2) 児童生徒数の推移
- (3) 小中学校の施設の状況

## IV 学校再編の目標とスケジュール

- (1) 小学校の再編
- (2) 中学校の再編

## V おわりに

## I はじめに

男鹿市教育委員会では、旧男鹿市と旧若美町の合併後の平成18年度に「男鹿市小中学校の在り方を考える協議会」による提言を踏まえ、学校統合（小学校10校から6校へ、中学校6校から4校へ）を進めてきました。現在の小学校6校、中学校4校においては、平成28年度よりコミュニティ・スクール制度を導入し、地域との関わりを大切にしながら、児童生徒が一定の集団の中で学び合い、一人一人の資質や能力を伸ばしていく教育環境を整備してきました。しかしながら近年の少子化の進行による児童生徒数の減少は著しく、学校の小規模化による教育環境に大きな変化が生じてきています。

こうしたことから、男鹿市教育委員会は、5年後、10年後の児童生徒が学ぶ本市小・中学校のあるべき姿について研究協議するため、令和元年度に再度、学識経験者・地域の代表・PTA代表などによる「男鹿市小中学校の在り方を考える協議会」を設置し、令和2年1月に提言をいただきました。

このたび、その提言の内容を踏まえ、今後においても児童生徒の減少傾向が続き、学校が小規模化する中でのよりよい教育環境を構築するために、「男鹿市立小・中学校再編整備計画」を策定することといたしました。本計画は、将来における学校規模の見直し、学校施設の老朽化への対応も含めた総合的なものとして、様々な観点から検討を進めてきたものです。将来の学校の在り方の方向性を示した本計画をもとに、地域住民・保護者の皆様とともに、検討を重ね、理解を得ながら、男鹿市の将来を支える人づくりの基礎となる教育環境づくりを進めてまいりたいと考えています。

## II 学校再編に向けての基本方針

### (1) 望ましい教育環境について

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えます。また、学校の配置に当たっては、児童生徒の負担面や安全面などに配慮し、本市の実態を踏まえた適切な通学条件や通学手段が確保されることが必要と考えます。

### (2) 適正規模について

法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされています。本市においては現状の学校規模や今後の児童生徒数の推移から、国の示す標準学級数を全ての小・中学校で満たすことは考えていないところです。本市の現状及び今後の状況を勘案し、本市の考える適正規模を「小・中学校とも1学年2学級以上（1学年1学級であっても20人程度の児童生徒がいる規模）」と考えます。標準学級には満たないものの、おおむね、全学年でのクラス替えができ、より幅広い人間関係の構築や複数の教員による指導が可能となる規模であること、また、全児童生徒が、顔の見える横のつながり、縦のつながりを深める活動が実現しやすい規模であると捉えています。短期的には、「複式学級の解消」を早期に解決しなければならない課題と捉えつつ、地域の実情に応じ、小規模校におけるメリットの最大化、デメリットの最小化を図る手立てを講じて行く必要があると考えています。

### (3) 計画期間

この計画の期間は、現在出生している子どもの人数の推移を踏まえ、今後10年をめぐり、令和3年度から令和12年度までとします。

### (4) 配慮する事項

令和元年度に出された意見書（男鹿市小・中学校の在り方を考える協議会）では、学校統合を進める際の基準として、「地域住民からの要望」「複式学級の解消」「通学方法や所要時間」「施設状況」が挙げられています。学校の再編を進めるにあたり、

「地域住民からの要望」を考慮して進めていくことは不可欠です。現在市内全小・中学校では、平成28年度より導入しているコミュニティ・スクールを学校経営の基盤に据えた教育活動が展開されています。現在の取組を継続発展しつつ、地域と共にある学校づくりを念頭に進めていく必要があります。「複式学級の解消」について、今後の少子化の進行により増加が予想される複式学級は、子どもと教師の両者にとってマイナス面が多くあり、複式解消が必要と考えています。「通学方法や所要時間」については、通学手段にかかわらず、おおむね1時間を超えないように配慮することが必要と考えています。「施設状況」については、船越小学校や男鹿東中学校という、現状本市において最も児童生徒数が多い学校施設の老朽化が進んでおり、早期の対策が求められております。学校の再編と新校舎の建築を併せて検討していくことが必要と考えています。

### Ⅲ 学校（学区）再編の必要性

#### （１）現状と課題

##### ①小学校

現在校（創立年）	統合校（創立年・統合年）	統合校（創立年）	課題
船川第一小学校（M8）	船川第二小学校（M9・H16 統合）		
	男鹿中小学校（M8・H17 統合）		
	船川南小学校（S34・H28 統合）	増川小学校（M16・S34 船一小の一部と統合） 樺小学校（M16・H17 統合）	

※旧船川第二小学校、旧男鹿中小学校、旧樺小学校区児童は、スクールバスを利用し通学

現在校（創立年）	統合校（創立年・統合年）	統合校（創立年）	課題
脇本第一小学校（M8）	脇本第二小学校（M8・H19 統合）		住宅地の広がりにより、通学距離の長い児童がいる。

※旧脇本第二小学校区児童には、通学補助

現在校（創立年）	統合校（創立年）	統合校（創立年）	課題
船越小学校（M7）			校舎の老朽化

現在校（創立年）	統合校（創立年）	統合校（創立年）	課題
北陽小学校（H13）	鹿山小学校（M8）	安全寺小学校（M10）	複式学級の発生 児童数減少が著しい。
	北磯小学校（M10）	（S62 鹿山小に統合）	
	戸賀小学校（M10）		
	加茂青砂小学校（M9） （上記4校 H13 統合）		

※旧北磯小学校区児童はスクールバスを利用し通学、安全寺小学校区児童には通学補助

現在校（創立年）	統合校（創立年）	統合校（創立年）	課題
払戸小学校（M10）			複式学級の発生

※耐震不良により旧払戸中学校校舎に H25 移転

現在校（創立年）	統合校（創立年）	統合校（創立年）	課題
美里小学校（H26）	五里合小学校（M8）		スクールバス利用であるが通学時間が長い児童がいる。 複式の発生が予想される。
	鵜木小学校（M8） （上記2校 H26 統合）		
	野石小学校（M8） （H27 統合）		

※旧五里合小学校、旧野石小学校区児童はスクールバスを利用し通学

## ②中学校

現在校（創立年）	統合校（創立年）	統合校（創立年）	課題
男鹿南中学校（H4）	船川中学校（S22）	左記2校H4統合	生徒数が減少傾向にある。 部活動団体種目が困難。
	椿中学校（S22）		
	男鹿中中学校（S22）	H13 男鹿南中学校へ統合	

※ 旧椿中学校、旧男鹿中中学校区生徒はスクールバスを利用し通学

現在校（創立年）	統合校（創立年）	統合校（創立年）	課題
男鹿東中学校（S47）	脇本中学校（S22）	左記2校S47統合	校舎（教室棟）の老朽化
	船越中学校（S22）		
	払戸中学校（S22）	H20 男鹿東中学校へ統合	

※ 旧払戸中学校区生徒には、通学補助

現在校（創立年）	統合校（創立年）	統合校（創立年）	課題
男鹿北中学校（H2）	北浦中学校（S22）	左記2校H2統合	複式学級の発生が予想される。 生徒数の減少が著しい。
	北磯中学校（S22）		
	戸賀中学校（S22）	加茂青砂中学校（S22）	
	（H3 男鹿北中学校へ統合）	（S55 戸賀中学校へ統合）	

※ 旧北磯中学校区生徒はスクールバスを利用し通学

現在校（創立年）	統合校（創立年）	統合校（創立年）	課題
潟西中学校（S30）	鵜木中学校（S22）	左記2校S30統合	生徒数が減少傾向にある。 部活動団体種目が困難。
	野石中学校（S22）		
	五里合中学校（S22）	H20 潟西中学校へ統合	

※ 旧五里合中学校区生徒はスクールバスを利用し通学

(2) 児童生徒数の推移

○ 令和8年度までの児童推移(令和2年5月1日現在)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8
船一小	151	141	134	131	124	126
脇一小	127	124	118	111	94	84
船越小	297	271	278	257	234	224
北陽小	38	37	34	32	24	21
払戸小	67	64	61	56	56	55
美里小	64	66	65	66	64	58

○ 令和14年度までの生徒推移(令和2年5月1日現在)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
男鹿南中	95	84	86	87	77	70	64	64	64	67	60	62
男鹿北中	24	20	17	16	24	21	22	13	13	10	11	8
男鹿東中	275	269	249	259	251	246	233	209	211	191	175	152
潟西中	58	46	39	31	34	29	33	32	36	33	32	22

○ 令和8年度までの普通学級数(令和2年5月1日現在)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
船一小	6	6	6	6	6	6	
脇一小	6	6	6	6	6	6	
船越小	11	10	11	9	8	8	
北陽小	4	4	4	4	3	3	R3～R6：2複式学級 R7～：3複式学級
払戸小	5	5	5	5	5	6	R3～R7：1複式学級
美里小	6	6	6	6	6	6	

○ 令和14年度までの普通学級数(令和2年5月1日現在)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
男鹿南中	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
男鹿北中	3	3	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2
男鹿東中	10	9	8	8	8	8	8	7	7	6	6	6
潟西中	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

備考：R5～R6、R11～北中では複式学級が生じる。



### (3) 小・中学校の施設の状況

老朽化が進んでいる学校においては、学校の再編と新校舎の新築を併せて検討していく必要があります。

今後も児童数が一番多く見込まれる船越小学校は、昭和50年度に建築してから45年が経過し校舎の老朽化が進み、新築が必要な状況にあります。

また中学校においては、男鹿東中学校校舎も老朽化が進んでいる状況にあります。

#### 建築年・改修の状況

学校名	建物	構造	階数	建築年度	面積	備考
船川第一小学校	校舎	RC	3	S47	4,100	H27 大規模改修
	屋内運動場	S	2	H28	1,033	
脇本第一小学校	校舎	RC	2	H5～H6	3,293	
	屋内運動場	S	1	S58	951	
船越小学校	校舎	RC	3	S50～S53	3,620	
	屋内運動場	S	1	S51～S52	732	
北陽小学校	校舎	RC	3	H12	3,721	
	屋内運動場	S	1	H13	791	H28 吊り天井撤去
美里小学校	校舎	RC	2	S62	2,534	
	屋内運動場	S	1	S62	825	
払戸小学校	校舎	RC	2	S57	1,935	H24 大規模改修
	屋内運動場	S	1	S54	870	
男鹿東中学校	校舎	RC	3	S47～S50	6,312	H24 大規模改修(耐震)
	屋内運動場	S	2	H24	1,597	
男鹿南中学校	校舎	RC	3	H3	5,813	
	屋内運動場	S	2	H4	1,465	
潟西中学校	校舎	RC	2	S60	2,647	
	屋内運動場	S	1	S61	1,390	
男鹿北中学校	校舎	RC	3	H1	3,970	
	屋内運動場	S	1	H2	1,188	

#### IV 学校再編の目標とスケジュール

##### (1) 小学校の再編

###### ① 払戸小学校の船越小学校への統合（令和7年4月、船越小学校校舎新築時）

払戸小学校では、令和3年度に複式学級が生じる予定であり、児童数は年々減少することが予想されます。統合予定校である船越小学校は校舎の老朽化が進み、校舎の新築が必要な状況にあります。令和7年4月に、払戸小学校を船越小学校へ統合し、船越小学校の校舎（1学年2学級規模）を新築します。現払戸小学校区児童は路線バスまたはスクールバス等での通学とします。

###### ＜船越小学校、払戸小学校の児童数推移＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
船越小	297	271	278	257	234	224
払戸小	67	64	61	56	56	55
統合後	364	335	339	313	290	279

###### ② 北陽小学校の船川第一小学校への統合（令和7年度以降）

北陽小学校では、平成13年の創立以降、男鹿北部地域の核としての役割を担ってきました。創立時は約200名の児童数でしたが、近年は児童数が激減し、令和元年度からは複式学級が出現しています。令和2年度からは2つの複式学級が生じ、今後近いうちに全学年が複式学級となることも想定される状況にあり、複式学級の解消のためには、統合がやむを得ない状況にあります。

一方、本計画において、男鹿北中学校の令和4年4月の男鹿南中学校への統合が予定されており、北部地区唯一の学校となる北陽小学校の地域における存在意義は、これまで以上に大きいものと考えます。そのため、複式学級における学習指導方法の工夫やICT機器の活用など、小規模校のメリットの最大化を図る手立てを講じながら、当面、学校を維持していきます。令和7年度以降においては、3つの複式学級となり、より小規模化が進行することが想定されることから、今後の児童数の推移や保護者及び地域の要請に応じ、船川第一小学校への統合時期を検討していきます。

＜船川第一小学校、北陽小学校の児童数推移＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
船一小	151	141	134	131	124	126
北陽小	38	37	34	32	24	21
統合後	189	178	168	163	148	147

③令和7年度以降

令和7年度以降の男鹿市内の小学校は船川第一小学校、脇本第一小学校、船越小学校、北陽小学校、美里小学校の5校となります。北陽小学校については、船川第一小学校との統合時期を検討していきます。令和12年度以降については、児童数の推移、複式学級の発生状況等の状況により、さらなる統合により2校となることを見込まれます。

船川第一小学校は、統合後、市北部地区を含めた広い学区となります。コミュニティ・スクール制度を生かした取組により、地域を学び、地域から学ぶ学習活動を計画的に展開し、ふるさと男鹿の未来を担う人材育成の基礎を育む拠点としていきます。児童数は、当面学年1学級（1学級25人前後）となります。

脇本第一小学校は、令和6年度までは全校児童100人程度を維持することが想定されます。今後10年、複式学級は生じないものと考えられます。学年1学級（1学級15人前後）となりますが、学年縦割り活動を取り入れた異学年交流の導入や少人数学級のメリットを生かした指導の工夫により、他と積極的に関わりながら個を伸ばす教育の展開が期待されます。

令和7年度に払戸小学校と統合する船越小学校は、学年2学級（1学級人数25人前後）となります。新校舎を建設し、将来的には脇本第一小学校及び美里小学校との統合も視野に入れ、市東部の基幹校として整備していきます。

北陽小学校については、船川第一小学校との統合時期を検討していきます。

美里小学校は、旧野石小学校区、旧鶴木小学校区、旧五里合小学校区を含む広い学区であります。今後の児童数の変動によっては、近々複式学級が生ずる可能性があります。現状では令和9年度に複式学級の発生が予想されますが、統合先として想定される船越小学校までの通学距離及び通学時間が長いことと、若美地区の核としての学校の存在を重視し、この先10年間は学校を存続させます。

コミュニティ・スクール制度を生かした取組を、なお一層活発化させ、地域とともにある学校づくりを進めていきます。

## (2) 中学校の再編

### ①男鹿北中学校の男鹿南中学校への統合（令和4年4月）

男鹿北中学校では、これまで少人数による個に応じた教育及び「なまはげ太鼓」に代表されるような地域に根ざした特色ある教育が展開されてきました。近年、生徒が減少し、全校生徒が30人を下回る状況となり、今後、更なる減少が予測され、互いに学び合う学習活動や多様な人間関係の構築が難しい状況にあります。そこで、全校生徒が20人前後となる令和4年4月に男鹿南中学校へ統合します。統合後、現男鹿北中学校区生徒は、スクールバス等での通学となります。

#### <男鹿南中学校、男鹿北中学校の生徒数推移>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
男鹿南中	95	84	86	87	77	70
男鹿北中	24	20	17	16	24	21
統合後	119	104	103	103	101	91

### ②潟西中学校の男鹿東中学校への統合（令和5年4月）

潟西中学校では、これまで若美地区を代表する中学校として、生徒の「夢」の実現に向けた様々な教育活動を展開し、文武両面において輝かしい歴史を歩んできています。近年、生徒が減少し、全校生徒が50人台となり、今後、更なる減少が予測され、多様な教育活動が困難な状況にあります。そこで全校生徒が30人台となる令和5年4月に男鹿東中学校へ統合します。統合後、現潟西中学校区生徒は、スクールバス等での通学となります。

#### <男鹿東中学校、潟西中学校の生徒数推移>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
男鹿東中	275	269	249	259	251	246
潟西中	58	46	39	31	34	29
統合後	333	315	288	290	285	275

③令和5年度以降

令和5年度以降、男鹿南中学校と男鹿東中学校の2中学校となります。

男鹿北中学校との統合後の男鹿南中学校は、当面学年1学級（1学級30人前後）となる見込みであります。

潟西中学校との統合後の男鹿東中学校は、当面学年3学級程度（1学級30人前後）となる見込みであります。男鹿東中学校校舎は老朽化が進んでいることから、令和10年度をめどに新校舎（1学年4学級規模）を建築します。その際、男鹿南中学校と男鹿東中学校の新設統合校とし、建築場所を今後検討していきます。

＜男鹿南中学校、男鹿東中学校の生徒数推移＞

	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
男鹿南中	86	77	77	77	71	70
男鹿東中	266	241	247	224	207	174
統合後	352	318	324	301	278	244

○ 令和8年度までの児童推移と統合予定

	R3	R4	R5	R6	R7	R8
船一小	151	141	134	131	124	126
北陽小	38	37	34	32	24	21
脇一小	127	124	118	111	94	84
船越小	297	271	278	257	290	279
払戸小	67	64	61	56	船越小へ	
美里小	64	66	65	66	64	58

※統合を検討

○ 令和14年度までの生徒推移と統合予定

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
男鹿南中	95	104	102	102	100	91	86	(77)	(77)	(77)	(71)	(70)
男鹿北中	24	南中へ						318	324	301	278	244
男鹿東中	275	269	288	290	285	275	266	(241)	(247)	(224)	(207)	(174)
潟西中	58	46	東中へ									

## V おわりに

男鹿市立小・中学校の再編整備により、「男鹿市のめざす子ども像」である、「ふるさと男鹿を愛し、すぐれた知性、豊かな心、たくましい体を持ち、ふるさと男鹿の将来を担う子ども」を育てていきます。

また、再編整備による教育環境整備として、

- (1) コミュニティ・スクールの更なる充実を図り、「地域とともにある学校づくり」の実現
- (2) タブレット端末等のICT機器を活用し、児童生徒一人ひとりの資質や能力の向上
- (3) 老朽化した施設の建て替えなど、健康的かつ安全な学校施設の整備

を進めてまいります。

このことにより、どの学校の子どもたちも誰一人取り残すことなく、公正かつ学ぶ意欲や能力を最大限伸ばすことができるために教育環境を整備し、質の高い教育を受けさせることを使命とし、男鹿市の将来を支える人づくりに努めてまいります。

**【追記】**

IV 学校再編の目標とスケジュール (1) 小学校の再編 ① 払戸小学校の船越小学校への統合の項中、船越小学校の校舎新築については再検討し、校舎の大規模改修に変更した。

(令和3年9月)